

コメント「日本人のイタリア観の変遷」

岩倉具忠

私、コメンテーターという大変な役割をいただきました岩倉でございます。この時代になりますと、どうも岩倉使節団ということがたびたび出てまいります。それなら岩倉にやらせておけばいいだろうということで、私、ご指名いただいたのかもしれませんが、実は私、こういったことの専門家ではございませんので、あるいはトンチンカンなコメントになるかもしれません。お許してください。

岩倉使節団に加わられた田中不二麿、当時のイタリア公使ですね。鈴木栄樹先生のお話に出てきたわけですが、その田中不二麿公使のご子孫でいらっしゃいます田中久先生が会場においでですので、ご紹介したいと思います。

イタリアの地に私の先祖が140年ばかり前にお世話になりましたので、この公の場所を借りまして御礼申し上げます。

さていずれも大変興味深いお話でしたが、「イタリア観の一世紀」というテーマでイタリア観の変遷の歴史を扱うということが、今回のシンポジウムのテーマだと思います。このセクションは時代的にこの1世紀のごく初期の時代を扱ったものです。『米欧回覧実記』に見られる翻訳語の問題を扱われた Calvetti 先生は使節団が帰国した1873年から『米欧回覧実記』が刊行された1878年あたりまでを対象にされました。De Maio 先生は修好通商条約が締結された1866年から70年代を採り上げられたこととなります。それに対して鈴木先生のご報告は、De Maio 先生が研究された日伊交流の黄金期という時代にあたるわけですね。長島要一先生はさらにやや後期を採り上げられたということになります。

なぜ時代を煩く問題にしたかと申しますと、今まで日伊交流史の中で、世代によってイタリア観が微妙に変遷したということに、それほど敏感な研究はなかったように思われますので、この点の解明もこのシンポジウムの目標の一つになるのではないかと思ったからです。いわゆる日本の西欧化、Occidentalization というものを通して、近代化に成功した要因の一つは西洋文明の翻訳という作業が成功したからだと思われます。特に漢語のメカニズム、Calvetti 先生が扱われた漢語のメカニズムが、いわゆる西洋の技術用語の翻訳に非常に適していたということが、この作業の成功の原因であったことは、すでに多くの論者によって証明されてきました。しかし翻訳にあたって試行錯誤があって、全部が成功したわけではなく、脱落したものもありますし、なかなか一筋縄ではいかなかった点で、そういう点を Calvetti 先生のご報告は、新たな側面から明らかにされたものだとということで大変興味深く伺いました。

De Maio 先生は当時日本を訪れたイタリア王国海軍の軍人の記録というものに見られる、日本の観察から日本人のイタリア観を掘り起こされようとしたわけですが、これ自体、驚くべきことに、たくさんのイタリアの軍艦が日本に来ているということですね。そして一体何の目的

で来たのか。表向きは通商ということですが、遅ればせに国際競争に加わったイタリアが、植民地というものを頭においていろいろな調査をしていたのではないかと思います。そういう点も今後、明らかになっていくと面白いと思います。

また鈴木栄樹先生のご報告では、当時、イタリアと接触した日本の高官、田中不二麿公使を通して書簡類と豊富な資料に基づいて、当時の日本の高官が、イタリアをどういうふうにとらえたかという点を明らかにされました。特に谷干城が、イタリアに軍事過大の災いを見たのに対して、黒田清隆の方は日伊二国間の後進性の類似性、二国とも遅れているがために似ていると、そこに着目して、そこから何かを学びとろうとしたところが大変興味深く思いました。

最後に長島先生は、この二つの文化の橋渡しができるだけの器量と知識を兼ね備えていた鷗外が、文化の翻訳者になりえたのだというお話でした。それからまた『即興詩人』においては、キリスト教を排除しつつ、西洋文化の日本化を実践したことなど、極めて示唆に富む問題も提起されました。久米邦武から鷗外に至る明治初期から中期にかけての日本知識人は、長島先生のおっしゃいましたバイ・カルチュラルであったからこそ、イタリア理解、ひいては西洋の理解が、ある意味ではそれより後代の知識人よりも深かったのではないかという印象を持ちます。初期の日本人は日本の代表としての気負いがあった。根性が違っていただのではないか。そのことがあって却って西洋を客観的にとらえられたのかもしれませんが。その後の世代になりますと西洋に対する劣等意識も強くなって、西洋への傾斜度が著しくなっていますが、それはまさにバイ・カルチャーの一方の方がぐらついて、心もとなくなっていくことと関係があるのではないかと思います。

この4つのご報告を通して私は非常に大きな示唆を得ました。皆さん、いかがでしたでしょうか。ありがとうございました。